

## 仙台市社会福祉審議会老人福祉専門分科会 議事録

日 時：令和6年7月10日（水）

午後2時から

場 所：仙台市役所本庁舎8階第4委員会室

### 【仙台市社会福祉審議会老人福祉専門分科会委員】

#### ○出席者

阿部 重樹委員・安藤 健二郎委員・猪又 隆広委員・宍戸 衡委員  
清水 福子委員・平形 博司委員・山口 強委員

(7名, 五十音順)

### 【事務局】

伊藤保険高齢部長・小笠原高齢企画課長・松田介護保険課長  
大友介護事業支援課長・佐野健康政策課長・浅野地域包括ケア推進課認知症対策担当課長  
本間高齢企画課企画係長・青柳高齢企画課在宅支援係長・岡崎介護保険課管理係長  
磯田介護事業支援課施設指導係長・千葉介護事業支援課ケアマネジメント指導係長  
松本地域包括ケア推進課推進係長

### 【会議内容】

#### 1. 開会

#### 2. 保険高齢部長あいさつ

#### 3. 職員紹介

#### 4. 議事（安藤会長による進行）

会議公開の確認 → 異議なし（傍聴者なし）

議事録署名委員について、宍戸委員・清水委員に依頼 → 委員承諾

#### (1) 仙台市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の主要事業取り組み状況について 高齢企画課長より説明（資料1）

#### <質 疑>

#### ○猪又委員

何点かお伺いしたいと思います。まず4ページ目の、スポーツ活動への支援ということで、高齢者スポーツの部分ですが、これを見るとスポーツ交流大会、ねんりんピック大会への派遣ということで、大会に出ている方々に対するスポーツ活動への支援ということですが、一般的な高齢者

の方へのスポーツ支援という点では、どういったものに取り組んでいるのか、お伺いさせていただきたいと思います。

地域ではグラウンドゴルフですとか、ボッチャですとか、いろんな取り組みをしていることは存じ上げているのですが、市として何か取り組んでいるスポーツ活動への支援というところを示していただければと思います。

#### ○高齢企画課長

記載の事業につきましては、猪又委員のおっしゃる通り、大会等に参加される方向けの支援になってございますが、これ以外にも例えば老人クラブや憩の家で活動される方々がゲートボール等を楽しんでおります。また、老人クラブ連合会主催でグラウンドゴルフ大会などを実施しており、我々としては、老人クラブ連合会等への支援を通じまして、高齢者の皆様へのスポーツ活動支援を実施しているものでございます。

#### ○猪又委員

今日は平形委員もいらっしゃいますし、老人クラブにおいてということで、趣旨はその通りだなと思いますし、確かにそうなのでしょうが、私も以前取り扱ったことがあるのですが、老人クラブでやっているのは、老人クラブ連合会が、主にそういった大会を主催してやっていただいていると思うのですが、地域の中の老人クラブ連合会の課題の1つとして、それぞれ地域で活動をしている老人クラブが加入をしないという問題があって、それも大変大きな課題だということで認識をしているので、今、高齢企画課長は老人クラブへの支援について話されましたけれども、であるならば、その単位老人クラブの方々に、ぜひ老人クラブ連合会に積極的に加入を促すということをご希望していただきたいということは、議会でもお話ししましたが、改めてこの場でも共有していきたいと思います。

#### ○高齢企画課長

委員ご指摘の通り、老人クラブ連合会の方へ加入するクラブが年々少なくなっているというのは我々の方としても、課題として認識しております。

そもそも老人クラブへの加入自体が、趣味の多様化などによってなかなか進まない状況ではございますが、老人クラブへの参加のきっかけ、また連合会に加入するきっかけとなる何かインセンティブになるようなことを検討して参りたいと考えております

#### ○猪又委員

次の6ページの、一番上の（イ）の就労を希望する高齢者への求人情報の提供等マッチング支援体制の検討についてなのですが、特段説明はなかったのですけれども、令和3年度実績は404件とかなり相談件数多くて、令和4年5年度っていうのはまた回復基調にあるのかな、と思うのですが、この高齢者の方の就職マッチングというのは、シルバー人材センターの契約金額自体はかなり増えていて、このあたりは人件費が高騰していることとか、そういった部分が影響してこの契約金額が多くなっているのか、また高齢者の方々のマッチング支援、或いは65歳とか70歳でも、まだまだお元気に働きたいというふうな方も多いと思うのですが、この辺のマッチングの支援と、

さらなる支援体制というのは何か検討しているものがあるのか伺います。

#### ○高齢企画課長

まずシルバー人材センターの契約金額の増加の要因でございますが、先ほども申し上げましたが、報酬単価の引き上げが主な部分ではございますが、シルバー人材センターでは、様々な機会をとらえて、事業者の皆様への契約の働きかけなどを行っておりまして、そうした活動を通じまして、職域の拡大に努めているところでございます。

それと6ページ目でございます高齢者就労マッチングでございますが、2つ目の段落のところに書いてございますとおり、令和3年度までは、国の生涯現役促進地域連携事業を3ヵ年という形で委託を受けて、生涯現役促進協議会という組織を別に設けまして、取り組んできたものでございますが、国の連携事業の終了に伴いまして、そちらの協議会が解散したという形になってございます。

ただ、シルバー人材センターで行っている短期臨時だけの仕事の希望だけではなく、やはり長期的に働きたいという方がいらっしゃいますので、シルバー人材センターに仙台市生涯現役サポートセンターを設けておりまして、そちらの方でシルバー人材センターの業務だけではなく、長期的に働けるような仕事に向けた支援などを行っているところでございます。シルバー人材センターに令和4年度からサポートセンターを開設しておりますが、まだ認知度等は高くない状況だと思っておりますので、認知度を高めるような、周知広報にも取り組んでまいりたいと考えております。

#### ○猪又委員

ありがとうございます。そういった内容はよくわかりました。

シルバー人材センターって、これから大規模改修があるので、移転するのですよね。

#### ○高齢企画課長

3月でシルバーセンターは閉館してございまして、今は北四番丁の方の事務所に移転してございます。

#### ○猪又委員

最後に1点だけいいですか、ちょっとすごく気になったので。8ページのところの、高齢者の総合相談ですけれども、これ令和3年度令和4年度実績に比べて令和5年度はかなり急増しているということもあって、急増した要因を伺いたいのと、あとは併せてなんですけれども、相談に来るといことは、何かしら解決を望んでの相談かなと思うのですけれども、解決の件数とかはあるものなのですか。それとも、解決に結びついているものなのですか。

#### ○地域包括ケア推進課推進係長

件数につきましては、確かに数は上がっているのですが、具体的な要因というところが正直把握はしきれてはいないのですが、おそらく想像するに、コロナ禍において溜まっていたものが一気に出てきたのかなというところだと思います。あと、解決策につきましては、この相談をもってすぐに解決をするというのは正直なかなか難しい部分があるのではないかと考えておりまして、我々の

方としては、相談を受けた上で、行政サービスはもちろんですが、社会資源等を含めた適切なサービスにつないでいくこと、そして地域包括支援センターを含めて、長い連携に持っていくというところをメインにしておりますので、正直、何をもって解決したと判断するのは難しいところですが、その解決件数までは正直把握していないところでございます。

#### ○猪又委員

ありがとうございます。解決にはなかなか結びつかないということで、行政だけで解決するのがなかなか難しいものも多々あるのだらうと思います。民間さんとの連携も含めてなんですが、ぜひ引き続きこの件数が増えているところは、もっと増え続けるのかどうかわかりませんが、一過性のものなのか、それとも今後も相談件数は増え続けるのか、数字はちょっと私も推移を注目していきたいと思いますが、一朝一夕に解決するのはもちろん難しい課題だと思います。

#### ○宍戸委員

私からも2点ほど、もしおわかりでしたら教えていただきたいです。

22ページなのですが、7. 多様な介護人材の確保・育成と働きやすい環境づくりの推進ということで、行政として、イメージアップに繋がる広報・啓発の実施ということでご説明がございました。このことに関連して、もし把握されていれば教えていただきたいのですが、本市における介護人材の高齢化の進展について、おわかりでしたら教えていただきたいと思っております。

質問申し上げました背景には、よく目にする記事に、特に訪問介護の領域かなと思うのですが、高齢化が進んでいると、老老介護というようなことが書かれていました。昔、介護保険制度が発足するときは、家庭内の老老介護は問題にされていたのですが、今度は社会的介護で老老介護に直面するというのは、あまり望ましくない状況かなと思います。おそらくその背景にはここにあるように、介護人材の確保が難しいということもあるのではないかと思います。このテーマについて、もしおわかりでしたら教えていただきたいと思っております。

#### ○介護保険課長

今手元には具体的な数値の持ち合わせはございませんが、これまで事業者様に面談させていただく機会がございまして、その他に電話相談等でも職員の方から伺っておりますが、やはり高齢化、なんといっても若い人がいない、定着率も低いですし、なかなか難しいという話は聞いてございます。

#### ○宍戸委員

今後のことを考えるときに、現場での負担を増やすことになりそうな気がするのですが、一応市としても把握に努められて、実態を掴んでおかれるっていうことは必要じゃないかなという気がします。今後ご対応を考えていただければと思います。

もう1点は25ページになります。(4) の業務の効率化に向けた取組の強化の(ア)のICTの活用による生産性向上で、実績の中で、ICT活用に関する意見交換会というものが行われているということです。このICTの活用、介護の現場でのICTの活用、特に、この説明の文章にあるICT導入定着

っていうことが出ておりますが、この辺りは意見交換会で、どのような意見が出ているのか、もし把握されていたら教えていただきたい。

またこれも質問の背景ですが、もう当然ご承知のことと思いますが、令和6年度2024年度の改正介護保険制度で、このICT活用による生産性の向上、非常に大きなポイントとして、確か言われているように思ったのですよね。そう言われてもなあっていう印象が私にはあったものですから、実際現場の意見交換会で、この点に関して、どういう感触をお持ちなのか、ただその感触を踏まえて、制度改正がどれほど生きていくかということになるのかなと思ひまして、お聞きしたいと思ひました。

#### ○事務局

こちらの取り組みにつきましては、経済局の産業振興課の方で行っている取り組みとなつてございまして、大変申し訳ございません、意見交換会での現場の声というのは、この場ですぐお答えが難しい状況となっております。

#### ○宍戸委員

そのような状況でやっていることはよく理解できました。これも今後、介護保険制度においてできるだけ、制度の改正の趣旨を活かす形で進捗を図られるということを目指されるのであれば、情報の把握にお努めいただいた方がよろしいのではないかというふうに思ひます。以上でございます。

#### ○保険高齢部長

今のICTの活用による生産性向上というところですが、やはり担い手不足の進んでいる介護の現場で省力化というのは非常に重要な取り組みだと我々も考えております。この事業自体は経済局が担当しているのですが、我々としまして、県の方で、ICT化に向けた機器を導入する際の補助金というのを、都道府県単位で、国の制度設計上は設けられておひまして、こちらの利用促進ということで、事業者積極的に働きかけを行つておひまして、年々補助金を活用していただいている事業者が増えてきているという状況にございまして、今後とも事業者のメリットとなる取り組みについては、市としても積極的に後押ししていく必要があるというふうに考えておひましたので、引き続き、事業者のご意見を伺いながら、取り組みの推進を図つてまいりたいと考えておひます。

#### ○安藤会長

ちょっと宍戸委員にお話を伺いたいのですが、介護施設のIT化で、様々な、私が扱うカルテのような、書く方のIT化もあると思うのですが、利用者さんの見守りとかにもITの機器をお使いになっていると思ひますが、そちらの今の導入の状況はいかがですか。

#### ○宍戸委員

導入の方に関しましては、今年度から生産性向上加算とかの兼ね合いもありまして、非常に多くの事業所が興味を持っているというのが現状です。ただ、1台あたりが非常に高額なのでね。

それを施設全体で利用となると、数千万とかね、うちのような、うちは50床の施設ですが、それで利用数の半分ぐらいはベッドセンサーとか、そういうのを入れているのですが、それでも3000万近くするのです。これが倍の施設さんですと、6000万、7000万ということで、その法人の自己資金だけでは賄えなくて、賄えたとしても、その他の事業に影響が出てしまう。今お話のあった宮城県の補助金ということで、うちも補助金の方は活用しているのですが、補助金もいろいろ割合もありまして、興味はある、導入したい施設さんはあるのですけれども。私も今年度、その調査を私の所属している協議会内で、今現在調査しているところではあるのですが、ただですね、もう、10%ぐらいかなと、なおかつ全体となると、なかなか厳しいというのがあります。

ただ今回の制度改正で、生産性向上のための、という話をしていて、非常に今回は一番そこが肝かなというのはあって、各法人主体で協議しなきゃいけないと思いますので、各法人いろいろ調整をして、今後活用されるかなと思います。

あと現在は記録とかカルテとかですね、介護の現場でも同じような形で、記録のICTが進んでおりまして、iPadとか、そういった端末を利用して、中にはもう自分の携帯電話で記録ができるようなところもありまして、一定の条件を満たすとITはだいぶ利便性が高くなっておりまして、現場のスタッフはその点言えば業務負担は軽減されているかな、と。ただ保険高齢部長さんおっしゃったとおり、人材不足というところで、その辺が、外国人頼みとなっておりまして、記録システムはそういった電子化できる部分というのは電子化されますけれども、主たる生活支援ですとか、生活支援業務におきましては、やはり人材不足。あとは今、年齢とかそういう話ありましたが、多くの施設さんが二極化しているのですね。ちょうど20歳代の新卒からの若いスタッフ、あとは上が大体40代後半から50代、じゃあ20代後半から30代40代は何をしているのかというと、子育て世代なのですね。なので家庭的に終了時間が限られるとか、そういった状況がありまして、多くの施設さんはやはり、ちょうど一番体が動いて、いろいろ頑張ってもらいたい世代のスタッフがなかなかいないというような状況になっているのかな、と思います。

ただ今年に入りまして仙台市さんと共同で、外国人の労働者に関する研修会等も開催させていただきましたので、そちらの方もやはりいろいろ協力をして、人材不足解消に向けて、取り組めればなあというふうに思っております。

こちらの資料でお話しましたが、コロナ禍において必要だった事業は、令和5年度コロナ明けまして、そこは減っている。その他の事業は必要に応じて、回数であったり、参加される方・受講される方も増えているということだったので、概ね順調な滑り出しなのかなと思っていました。

#### ○安藤会長

どうもありがとうございます。いろいろ参考となる情報が聞けたと思います。

#### ○清水委員

私からの質問は6ページと7ページについてです。6ページの方は、地域における支え合い活動を行うボランティア団体への支援というところで、このところは3年度実績から、4年度、5年度と減っています。私が思うところには、配食サービスの活動をしている団体の減少というところなのだと思いますが、それとあと7ページの(ア)ですね、食の自立支援サービス、そのところも年々

減ってきている、5年度はちょっと増えましたけれども。この事業は、2003年度から仙台市で行っている事業で、その直後には30万食くらいあったような気がしております。だんだん減ってきている理由にはいろいろな物価高騰とか、コロナ明けっていうこともあるとは思いますが、高齢者の食を支えるには大事なことでありますし、介護予防、もしくはフレイル予防にも繋がりますので、そこはもう少し仙台市として力を入れて欲しいところだと思います。

それと戻りますが、6ページのところです、ここが減った原因として、3月の新聞に出ていましたが、ボランティア団体や配食サービスが減った、撤退した理由としては、やはり活動者の高齢化ということ、また今の物価高騰による減少だと思っておりますが、こちらの方のところも、高齢者の食事がこれだけだっていることは、どんどん増えてくる高齢者に対して、何らかの支援が継続的に必要じゃないかなというふうに思っておりますので、ぜひ、支援をしていただきたいと思っております。

#### ○高齢企画課長

まず、6ページのところなのですが、3年度9件とございますけれども、同じ事業を実施していたものではなくて、令和4年度から事業のスキームを変えたというところもございまして、助成件数が減っているものでございます。新規団体に特化するような形で見直しをしたところでございますので、助成件数が減っているというところでございます。

ただ一方で、その担い手不足というのはもちろんございますので、そういった担い手となる方をいかに確保していくのかというのが、今後の課題であるというふうに認識をしております。

7ページ目の食の自立支援サービスにつきましては、民間の配食サービス等々も充実してきているという状況もございまして、その配食数については減少傾向というようなこともございます。一方で、やはり民間事業者ではできない見守りをつけた上での配食というところでございまして、必要な方が必要なサービスを受けられるように、我々としても周知広報に努めて参りたいというふうに考えてございます。

#### ○清水委員

食べると本当に元気になるんですね、高齢者の方って。ですので、要介護4とか5になる前から、要支援のときから食べていてくれると、おうちでずっと在宅で過ごすことができるのではないかなと思いますし、あと食の自立を始めてもすぐに施設に入ってしまう方とかもいるんですね。でも、食事をちゃんと1回、2回と届けてあげられれば、この人はもう少しおうちで生活できるのではないかなと思いますし、あとはもう、訪問介護のヘルパーさんにお手伝いしていただければ、本当にまだまだおうちで頑張れるのではないかな、と思うような方を何件も見ていると、本当にもっともっと訪問介護の方もヘルパーさんが増えて、そこにお手伝いに行けるような制度であれば、とって質問させていただきました。

#### ○高齢企画課長

清水委員のおっしゃる通り、食事をすると、例えばおしゃべり、口を動かすことっていうのは、介護予防、フレイル予防にも繋がるといえるのは認識しております。こちらの事業は、要支援となる方から利用できますので、必要な方が必要なサービスを受けられるように、我々として

は周知広報に努めて参りたいというふうに考えてございます。

#### ○安藤委員

医者から言わせてもらおうと、すべてに優るものが食べるということです。食べるということができなければ、弱ってしまって、年を取ってお1人で住んでいっちゃうと、食べるものが決まってきたりして、誰かからアドバイスがないと決まったものばかりになって、栄養面で偏ってくるところがある。そういうのに歯止めがかかって、一緒にできれば素晴らしいと思います。食べるって本当に重要です。

#### ○山口委員

10ページの、地域ケア会議の開催というのがあるのですが、個別ケア会議で237回ということで、多い数字なのか少ない数字なのかわからないのですが、実は最近、私が関わっている方に対してのケア会議を、包括の方に頼んで関係者を集めて開いたのですが、問題は個人情報絡むのですが、難しい課題です。結論は、そんな1回2回くらいではそう出ないと思うのですが。実際にこの237回の数字というのは、仙台市の方として、内容というか、どんなところが多いのですかね。わかっている範囲で教えていただきたいのですが、例えば地域によって区によって違いがあるとか、そういうのがわかれば、お伺いしたい。

#### ○地域包括ケア推進課推進係長

件数につきましては、我々としても、地域包括支援センターさんの方に、できるだけ機会を持ってやるようにということをお願いをさせていただいているところでございまして、そういったところも含めて数が上がってきたのかな、というふうに考えております。内容といたしましては、先ほどおっしゃったように、もちろんケース検討といいますか、なかなか支援が困難な事例に対して、皆さんで集まって、どのように支援をしていったらいいだろう、というところがどうしても中心になってしまっているというのが今の状況でございます。そこにつきましては、こちらは今年からでございますが、より関係者が集まってケア会議ができるように、包括支援センターから会議に出席して欲しいというときには、ぜひご協力くださいというご案内を市の方からさせていただくなど、フォローしているところでございます。内容については、ケース検討ということになってしまっているのですが、ものによっては、そのケースの課題自体を地域全体の課題として検討するというようにもっていききたいな、と考えているところでございます。

#### ○山口委員

参考までに言いますと、私がやったのは、包括と民生委員が3人くらい、それから地域の消防署、駐在所、それから市営住宅に住んでいる方なので市営住宅の管理課、生活保護を受けている方なので保護課、それから障害高齢課、それから地域でリハビリに行っている関係でリハビリの関係者の方、総勢10余名で開いてきました。高齢者の方なのですが、個人情報があるのであまり言えませんが、精神的な不調を持っている方をどうするかという問題なのです。周りの方が、その方の言動に対して恐怖感を持つような、あの人どっかにいなくなればいいな、とかね。その方の発する言動が周りの方にすごく迷惑をかけていて、非常に深刻な状況だったんです。そういったこ



とでケース会議を開いたのですけれども、結論は全部出ないですけど、まずは情報共有して、どういう方向で持っていくかというのをみんなで相談しましょう、ということで、支援に繋げるようとしたのですが、非常に会議は深刻で、そう言った感想を持ったので、他ってどうなのだろうと思ったのです。これに対しては答えはいいりません。

○安藤会長

個別のケア会議に、そんなに10人以上も集まるのですね。

○山口委員

何年前かに、厚労省が言った地域包括ケアシステムっていうのを仙台市でも構築しようっていうことがあったと思うのですが、その発展ですね。それがうちの地域にはあるので、その地域包括ケアシステムの中の関係者を集めた会議です。私が全部集めろって言ったのですが、関係者を集めてですね。

○安藤会長

私は東中田の包括圏域のケア会議には出ていますが、そこには、山口委員おっしゃるように、警察とか郵便局の方とかいらっしゃるのですが、地域の新聞販売店の方とか、何か異変がわかるのですね、そういう方々の情報ですごくみんなで守っている地域なのかなというのを感じます。そういう「いいね」みたいなもの、ぜひ皆さんに、市内に紹介したいと思います。また他の圏域にも、いろんないい案件があるのではないかなと興味があるので、記録をまとめて公表できればと思いますが、いかがですか。

○地域包括ケア推進課推進係長

確かに地域包括支援センターの方々も非常に皆さん努力をしていただいて、中には郵便局の方や、或いはコンビニの店員さんが参加をしてくださっていたりとか、地域のことをわかってらっしゃる方が意外なところにいたりしまして、そういう方々にもきちっと、場合によっては来ていただいたりというところも見受けられます。

どうしても個人情報の扱いというところがございますので、その好事例の提供、そういうところをどうしていくかについては一定の制限はあると思いますが、機会を見て提供していきたいと考えております。ただ、少なくとも地域包括支援センターさんの間では、好事例、うちのセンターではこんなことをしているよというのを、そういうところは提供できるように努めてまいります。

○平形委員

私からは1つだけ、4ページにありますスポーツ活動への支援のところですが、この中で令和5年度の実績として、競技種目数18種目で、参加人数1,558人とありますが、この種目というのはどんなものがあるのでしょうか。

うちの方でも普段からスポーツ大会をやっております。ソフトの面とハードの面で。ソフトの面というのは、年2回ぐらい体力測定をしています。春には7秒ぐらいだったのが、秋の大会のと

きにはそれが6秒になると、みんな褒めるわけです。ですから皆さん、よし今度は秋になったらがんばろう、という感じで参加する。年寄りの人は、今の体力がどのくらいあるかというのを体験できる。

あとはスポーツ大会の方はグラウンドゴルフでカップを用意しまして、必ず1位になった人に贈るわけですよ。だからもう、老人クラブの中身っていうのは、細分化してきています。仙台市の方でいろいろ補助金なんかいただいています、その細分化された下の方にはなかなか手が出ない。そうすると必ず、人数が減ってくるのです。ゲートボールなんて一番多かったのですが、今ではゲートボールは4番目か5番目。なぜかという、する人がいないのです。もうだんだんお年寄りになりまして、今やっているのはペタンクとかですが、それもだんだんなくなってきますね。あとは、何もしないのです。ただみんなが集まってお茶するだけで、今日は何曜日ですからねってみんなと言って、そのあとeスポーツをして。趣味の範囲がものすごく広がって、しかも、限られた人数で何回もやんなきゃいけないということなのです。補助の仕方とか、分析の仕方だんだん変わってきて、その辺をやっていると、上に立つ人はね。グラウンドゴルフとペタンク大会を一緒にやって、そういうときにも何月何日集まりますから来てくださいと言って、仙台辺りだと皆だいたい集まって来るのですが、そうすると、去年より今年は少なくて、今年はこのぐらいで我慢していかなくちゃいけない、来年はもっと減ってくるなという具合。ただやっているものの内容がどんどん細分化していつている、ということだけお知らせしたいと思います。

#### ○高齢企画課企画係長

平形委員からご質問いただきました、生きがい健康祭の種目のところでございます。従来の17種目は本当に多様なものでございまして、テニスやサッカーなどがございまして、剣道、ダンススポーツ、こういったところも入っているところです。令和5年度において1種目増えておりますが、こちらはeスポーツを新たに取るということになります。鳥取のねんりんピックが今年度行われますが、そちらで正式種目といたしますか、種目にeスポーツが入ることになったことを受けたものでございます。

私どももeスポーツにも取り組んでいるところでございますが、高齢者の皆さんの趣味の多様化は、実際にスポーツ大会をやっていると感ずるところでございますので、こういったところも通じて、まさに今週、とある地区の老人クラブの皆さんにeスポーツ、地域の老人クラブでやりましょうということで取り組みを行うところでございます。こういったところの感触を見定めながら、地域でそれが広がりを見せていくような形にできればいいなと思っておりますのでございます。

#### ○平形委員

あと、スケボーとかダンスとかも真剣なのですよ。3人か4人ぐらいのグループで、今から宇都宮に行ってサーフィンやりますって出かける人がいる。自分たちが今まで考えてきた、いわゆるスポーツのイメージと全然違うので、ちょっと差があります。もっと年齢が下がって60代くらいになると、まとめてスポーツをやりますってことは、ちょっと考えられない。だから今言ったダンスの場合でも、どっちかっていうと、レインダンスとかフラダンスとか、ヒップホップとか、ああいう踊りも全部やっているわけですよ。ですから、なんですかそれはっていう、も

う耳を疑ってしまうようなことがあるわけですよ。

○安藤会長

ありがとうございます。各委員から大変重要なお質問とか貴重な情報をいただきまして、大変勉強になりました。

## 5. 報告事項（安藤会長による進行）

### (2) 敬老乗車証における新制度施行に向けた対応について

高齢企画課長より説明（資料2-1、2-2、2-3）

<質 疑>

○安藤会長

とても丁寧なお準備で、市民の方々に対してもいいものではないかなと思うのですが、議会の方からはどんな反応があるのでしょうか。

○猪又委員

こちらの方は先ほど部長からもお話があった通り、第1回定例会の方で、議論がいろんな角度からありましたけれども、しっかりと進めていくべきだとか、持続可能な制度にしていくべきだという意見が大半で、議決もされたと認識をしております。あとはこの中でチャージ専用窓口の設置や、丁寧な周知ということで市民説明会もやっていますが、私から1点だけ伺いたかったのが、チャージ専用窓口自体は、シルバー人材センターの方がいらっしゃるということで先ほどご説明があったのですが、今、令和6年だから、1年3ヶ月ぐらいの間、設置をされるということで、その後無人チャージ機に置き換えるということでいいのですかね。

○高齢企画課長

ご認識の通りでございまして、7月29日から設置いたしますチャージ専用窓口、こちらは有人の窓口になりますが、こちらにつきましては、無人チャージ機設置までの暫定施策として実施するものでございますので、無人チャージ機の設置については、令和7年10月から順次行っていきますので、それまでの暫定ということでご理解いただければと思います。

○猪又委員

安藤会長もおっしゃられたけど、すごく丁寧な形で進めていただいていると思います。

## 6. 閉会